	⑵　１つのページデータに含まれる色の種類は、16以下とし、追加機能を有する場合は、32以下とする。 　なお、色の種類は、次に示す和とし、共通した色の種類は１として数える。 ア　本文、ヘッダ文及び一層フォトグラフィック図形領域の色の種類は、別記に示すとおりとする。 イ　ジオメトリック図形領域の色の種類は、描画に使用した色の種類とする。 ウ　多層フォトグラフィック図形領域の色の種類は、４層の場合16とし、15層の場合32とする。 ⑶　着色の単位は、文字、モザイク図形表示による図形及びＤＲＣＳ図形表示による図形にあっては表示区画及び機能区画、一層フォトグラフィック図形表示による図形にあっては機能区画、その他の図形にあっては論理画素とする。ただし、ヘッダ文表示領域及び本文表示領域を一括して着色することも可能なものとする。
２　フラッシングの方法	⑴　フラッシングは、文字又は図形を背景の色で隠し（以下「滅」といい、別表において同じ。）及びこれを復元する（以下「明」といい、別表において同じ。）ことを周期的に繰り返すことにより行うものとし、同一の画面において「明」と「滅」の位相を逆にした表示を同時に行うことができるものとする。 ⑵　フラッシングの周期は１秒を、また、「明」対「滅」の時間比は１対１を標準とする。
３　表示の遅延の方法	一のページにおける個々の文字及び図形の表示は、指定する時間遅らせることができるものとする。
４　多画面表示の指定	多画面表示の指定は、標準密度の横書又は標準密度の縦書の書式で全面固定表示モードのページ（応答進行の一括形番組の場合を除く。）についてのみ行うことができるものとする。

別記　本文、ヘッダ文及び一層フォトグラフィック図形領域の色の種類

領域		数えるもの	各和
全ての領域		背景色	色の種類の数（注１）
コンシール部分の一層フォトグラフィック表示領域以外の領域	非フラッシング	前景色	
	正相フラッシング	前・背景色の組	色の組の種類の数（注２）
	逆相フラッシング	背・前景色の組	
コンシール部分の一層フォトグラフィック表示領域	非フラッシング	前・背景色の組	色の組の種類の数（注３）
	正相フラッシング	前・背景色の組	色の組の種類の数（注３）
	逆相フラッシング	前・背景色の組	色の組の種類の数（注３）
		合計	色の種類

注１　前景色と背景色とにおいて、共通する色は１として数える。
　２　正相フラッシングと逆相フラッシングとにおいて、共通する色の組は１として数える、この場合共通する色の組とは、正相フラッシングの前景色と背景色の組及び逆相フラッシングの背景色と前景色の組が同一である色の組をいう。
　３　同一種類の色の組とは、前景色と背景色の両方がそれぞれ同一の色の組をいう。

別表第十五号　書式及び文字の大きさの指定において使用できる符号集合の範囲

文字等 ＼ 書式	2バイト符号区番号（点番号）	標準密度の横書、高密度の横書			標準密度の縦書、高密度の縦書			欧文横書
		標準 縦倍 横倍 縦横２倍 拡大 特殊１ 特殊２	中形	小形	標準 縦倍 横倍 縦横２倍 拡大 特殊１ 特殊２	中形	小形	標準 縦倍 横倍 縦横２倍 拡大
記号	１、２	○	○(2)	○	○			
英数	3(1)	○	○	○	○			○
平仮名	4(1)	○	○	○	○			
片仮名	5(1)	○	○	○	○			
ギリシャ文字	6	○	○		○			
ロシア文字	7	○			○			
けい線	8	○(3)		○				
漢字	16～47	○			○			
追加記号	92区　１～４点	○	○		○			
	５～12点		○					
	16～41点	○	○	○				
	48～52点	○	○	○	○			
	53～54点	○	○	○				
	93、94	○			○			
モザイク　A、B、C、D		○(3)		○				○(4)
ＤＪＣＳ特殊サイズ１画素構成		○			○			
ＤＲＣＳ　特殊サイズ１画素構成		○			○			
特殊サイズ２画素構成		○(5)						
横書標準サイズ画素構成		○(3)						
横書中形サイズ画素構成			○					
横書小形サイズ画素構成				○				
縦書標準サイズ画素構成					○(3)			
縦書中形サイズ画素構成						○		
縦書小形サイズ画素構成							○	
欧文文字画素構成								○
特殊符号　スペース、デリート		○(6)	○	○	○(6)	○	○	○